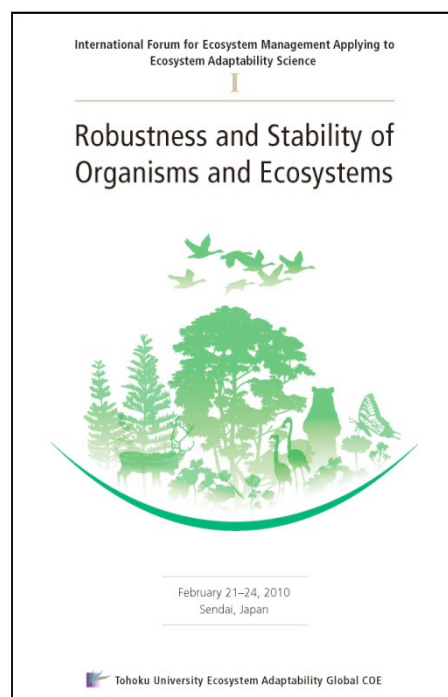


International Forum on Ecosystem Adaptability Science I : Robustness and Stability of Organisms and Ecosystems

第一回 生態適応科学・国際フォーラム「生物と生態系の頑健性と安定性」

2010年2月、生態適応グローバルCOE主催の生態適応科学・国際フォーラム "Robustness and Stability of Organisms and Ecosystems" を、仙台国際センターにて開催した。生物や生態系は、人間活動に起因するさまざまな環境変化に直面している。このような状況のなかで、生態系が担う重要な機能やサービスを維持していくためには、どのような条件で生物や生態系が環境変化に対して頑健または安定であるかを理解する必要がある。フォーラムでは、国内外から25名の招待講演者を迎えて、生物や生態系が環境変化に対応するプロセスやメカニズムについて、生物多様性や空間構造の役割・進化的応答など、さまざまな観点から議論が行われた。



開催時期: 2010年2月21日～25日

開催場所: 仙台国際センター

オーガナイザー: 河田雅圭, 中静透, 占部城太郎, 佐々木雄大, 黒川紘子, 富松裕

主催: 東北大学 生態適応 GCOE

活動概要

2009年6月 オーガナイザーを中心に4つのセッションが設定され、各セッションにおける招待講演者の候補を決定した後、招待状を送付した。その結果、国内外から27名の研究者の招聘を決定した。

2009年9月 オーガナイザーを中心に、生態系の安定性や頑健性を解明するための新たな枠組み・コンセプトについて議論を始めた。

2009年11月 関連して、オーガナイザーが博士課程大学院生2名と共に、関連する具体的な文献調査を始めた。

2009年12月 GCOEからの参加者に加え、国内他大学からの参加者若干名の公募を行った。

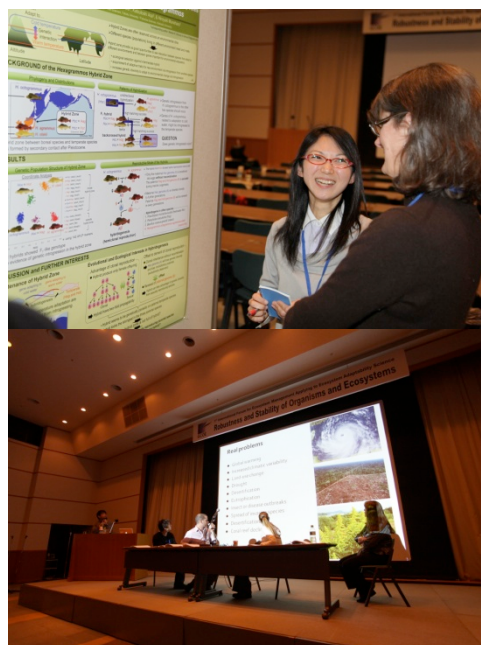
2010年2月 5日間にわたって、フォーラムを開催した(21日～25日)。参加登録者は全122名で、招待講演者27名(内2名が



キャンセル), GCOE 事業担当教員 13 名, GCOE 助教・フェロー 11 名, 博士課程大学院生 45 名, ポスドクなど 12 名, 国内他大学からの参加者 14 名であった。

- 21 日 Opening Remarks, Special Guest Talk, Session 1, Poster Session, Welcome Reception Party
- 22 日 Key Note Session, Session 2
- 23 日 Session 3, Session 4, Dinner*
- 24 日 Presentation by Organizers, General Discussion, Excursion*
- 25 日 Post-forum Discussion*

(* 招待講演者とオーガナイザーのみのイベント)



フォーラムの内容

生態系の頑健性・安定性に寄与する要因について、下記の4つの視点から話題提供および議論がなされた。加えて、Special Guest Talk としてソニーコンピューターサイエンス研究所の北野宏明氏から「生物の頑健性」について、Key Note Session では3名の海外研究者から関連トピックについて広い視点から講演をお願いした。また、ポスターセッションでは、博士課程大学院生や国内他大学の若手研究者を中心に22題の発表があり、参加者(特に招待講演者)との間で活発な議論がなされた。最終日には、オーガナイザーが新たな研究の枠組みや文献調査の経過について報告し、全体の総括が行われた。これを受けて、翌日の Post-forum Discussion では、オーガナイザーと招待講演者が、成果論文の取りまとめについて集中的な議論を行った。

Session 1: Evolutionary Response and Robustness (進化的応答と頑健性)

Session 2: Diversity and Robustness (多様性と頑健性)

Session 3: Network Structure and Robustness (ネットワーク構造と頑健性)

Session 4: Spatial Structure and Robustness (空間構造と頑健性)

成果物の出版について

現在、オーガナイザーが中心となり、招待講演者と連携しながら、(1)新たな研究の枠組み(変動環境下で重要な生態系サービスを維持するためには、どのような枠組みで研究を進めていく必要があるか)、(2)関連するトピックに関する文献レビューについて、それぞれ論文として公表するための準備を進めている。